

# ときめき人

Tokimeki bito



## 素材と対話楽しむ 登米に魅せられた 造形作家

登米町・九日町

### 吉原 かおりさん

よしはら かおり  
1968年生まれ 血液型/B型

#### Profile

常盤木学園高等学校を経て東北生活文化大学生生活美術学科を卒業。仕事の傍ら作品を制作。趣味はリサイクルショップめぐり、釣り。



吉原さんは、県や仙台市美術館をはじめ、県芸術祭への出展や個展の開催など積極的に活動。

「身近にあるさまざまな素材一つ一つと、じっくり対話しながら制作に取り組んでいます」と、笑顔で話す吉原さん。造形作家「つだかおり」として、和紙や紙粘土、段ボール、木材など性質や種類の異なる複数の材料を用いる「ミクストメディア」という技法で独自の造形作品を制作。メルヘンの世界に入り込んだようなタッチとファンタジー色溢れる雰囲気のある作品は見る人の心を踊らせる。

石巻市出身の吉原さんが登米市に移住したのは2006年。初めて訪れた登米秋祭り、町内会が1年かけて制作した数々の絢爛豪華な山車を目にし、強く心を打たれた。「自分もこの山車の制作に関わりたい」と意を決して拠点を移した。

吉原さんが芸術の楽しさに触れたのは幼稚園の

時。絵が好きな先生の笑顔が見たくて、毎日のように描いては見せていた。また、石巻市にある子どもたちのアート教室に通うようになり、芸術の世界に魅了される。物心がついた時から感性を磨いてきた吉原さんにとって、目に入るものすべてが作品の素材。山で落ちていた枝を見れば、「どう料理してやろうか」とイメージを膨らませる。

「没頭するあまり、気付けば外が明るみ始めてきたこともしばしばありました」とほほ笑みながら、「最近では、張り子や粘土などを使った作品にも挑戦しています」と、間口を広げる。「取り組んでみたい構想もあるので、これからも素材を探求しながら作り続けていきたい」創造性豊かな作品は登米の芸術のともしびに華を添え続ける。

## 編集後記

▼地球規模の壮大なテーマだと思いきり取った特集でしたが、市内の取り組みを調べたり話を聞いたたりしていくと身近に溢れているSDGs。「あれもこれも・・・紙面が足りない」と心の中で叫びながら編集しました。楽しくコラボしてくれましたとんと高校生の方々に感謝です。(渡邊)  
▼実を言うと私はサツマイモが大好物。園児たちが大きなサツマイモを持ち帰る姿を見てうらやましかったです。紅葉している葉が散り、だんだんと冬が近づいているのを感じます。日中は過ごしやすい気温ですが、夜は冷えるので体調を崩さないように気を付けましょう。(白石)  
▼取材で訪れた作品展。会場には、幼いころ夢中になった童話の世界を具現化したような作品たち。初めて経験するおとぎの世界での取材。物語の住人になったようなシチュエーションに、懐かしさと新鮮さを感じる不思議なひとときとなりました。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomei.yagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomeicity/>

